

3・11伝承ロード
推進機構

映像アーカイブ事業開始

大成ロテック
武山興業 2作品を登録

左から西田社長、今村代表理事、武山社長

東北地方の産学官民で組織する「3・11伝承ロード推進機構」（代表理事＝今村文彦東北大学災害科学国

際研究所所長）は、東日本

大震災から10年の節目を迎えた特別企画として「映像アーカイブ事業」をスタートした。建設業団体や企業、社員個人らが所有している写真や映像などを編集した上で同機構の映像アーカイブに認定。記憶と教訓の継承につなげる。

同機構は23日、1回目となる報道機関向け映像試写会と映像アーカイブ認定証交付式を仙台市青葉区のNTT東日本青葉通ビルで開いた。

冒頭、今村代表理事は「震災にはまだまだ知られていない実態があり、風化してしまっているのが現状だ。映像という形で残すことでメッセージを次世代につないでほしい」とあいさつした。

試写会では、登録第1号認定作品として福島第1原発近くを通る国道6号の啓開作業に当たった大成ロテックの「第二の水素爆発を防げ」、同2号認定作品として避難所を孤立させないためのインフラ復旧に当たった武山興業（宮城県石巻市）の「地元を守れ！」を放映。その後、認定証交付式で今村代表理事が大成ロテックの西田義則社長と武山興業の武山隼人社長に認定証を手渡した。

映像アーカイブ事業では、震災直後から復旧活動

に尽力した民間事業者の貢献を映像資料として可視化。同機構の公的な映像として認定する。

形式はスライド形式の無償版と動画映像形式の有償版の2種。スライドは15枚程度、映像は3～5分程度になる。

認定作品は自社ホームページへの掲載や配布、社員研修など多目的に活用してもらう。

試写会で放映した映像は同機構ホームページ(<https://www.311densho.or.jp/archive/index.html>)でも紹介する。

パネル展連日盛況

地域防災力強化の参考に

「3・11伝承ロード推進機構」主催のパネル展が、



パネル展の様子

設や震災遺構の写真などを熱心に見て回っている。

1日に始まったパネル展には連日、参考にして地域防災力の強化に努めようと学生や地域住民ら多くの人たちが訪れている。写真や図表類など27枚のパネルを展示し、被災地にある震災伝承施設や震災遺構、地域建設会社による道路啓開作業や被災者の救援作業に当たった姿を伝えている。

19日に訪れた仙台市若林区荒井在住の梅津功さん（56）は「津波の被害を受け、その後新しく生まれ変わった住みやすくなった荒井地区のまちが誇らしい」と話した。

入場無料。開催時間は休館日の月曜日を除く午前10時～午後5時。